

平成二十八年度 冬季 鎌倉俳句&ハイク

季節 「冬」

期間 平成二十八年十一月一日～平成二十九年一月末
投句数 二、六一二句

特選三句

天

足袋白く人力車より降りし人

東京都武蔵野市

池田 宏治

地

大草鞋ほつれて春を待ちにけり

東京都江戸川区

麻香田 みあ

人

美しき三の鳥居や初時雨

神奈川県横浜市青葉区

山下 省三

入選句

一般の部

総出して八幡宮の煤払い

山梨県甲斐市

石川 一男

谷戸住みの身に添ふ暮し冬菜畑

神奈川県藤沢市

宇留野 村畝

鎌倉の海のかがやく初詣

神奈川県横浜市泉区

江口 隆人

昼の灯の仄と古刹の白障子

東京都大田区

荻野 操子

空よりも海の青きよ寒に入る

東京都渋谷区

小熊 紀子

雪くるか鳶は輪を描き低く舞ふ

東京都町田市

神谷 紀美子

紅葉かつ散る御朱印の受付所

栃木県下野市

川勾 幸子

目鼻欠く矢倉の如来身にぞ入む

神奈川県横浜市南区

岸本 隆雄

大仏の優しき眼春日射し

広島県広島市安佐南区

桑升 幸子

俳句つて何と問ふ子や冬薔薇

神奈川県鎌倉市

小助川 雅人

大佛を巡りて去りぬ冬の鳶

埼玉県川口市

櫻井 松翠

枯葉踏む音の向うに源氏山

神奈川県横浜市戸塚区

芝田 和男

雪やんで俄に増ゆる鳶の数

神奈川県横浜市戸塚区

高橋 央尚

訪ひて立つ元旦の虚子の墓

神奈川県平塚市

中丸 しげこ

石一つ開高健の墓小春

東京都杉並区

野村 親信

大根煮る音にはじまる庫裡の朝

神奈川県三浦市

秦 孝浩

侘助や寺苑に箒使ふ音

神奈川県三浦市

兵藤 逸子

人垣の隙間に拝す弓始

埼玉県狭山市

古谷 多賀子

お年玉渡すよろこび今もなお

東京都渋谷区

前田 史代

黄落や修道院の屋根が見え

神奈川県逗子市

森澤 謙二郎

(順不同)

入選句

子どもの部

冬晴れの空がきれいな東慶寺

神奈川県横浜市緑区

辰巳 日菜

鎌倉の歴史歩けば冬紅葉

神奈川県横浜市緑区

千葉 漣

冬紅葉見ているうちにちってゆく

神奈川県横浜市緑区

田中 聖樹

鎌倉は冬の寒さを忘れさす

神奈川県横浜市緑区

徳田 武瑠

椿咲く高德院の美男かな

神奈川県横浜市緑区

篠田 真彩

赤トンボぼくのせなかでひと休み

埼玉県熊谷市

藤島 大也

初詣さあ一年の始まりだ

埼玉県熊谷市

後藤 彩瑛

秋の風鎌倉中に吹き渡る

埼玉県さいたま市南区

小澤 日菜

寒牡丹八幡宮を色どって

東京都江東区

青木 純平

手袋を外し賽銭投げる人

東京都八王子市

小林 美結

(順不同)